

葬儀執行手順

① 葬儀社への連絡

医師の死亡告知を受けたら葬儀社に連絡し遺体搬送及び枕飾りの準備をしてもらいます。

ご遺体の処置

遺体は仏間もしくは弔間を受けやすい部屋に安置して頭は北向きか西向きにして、顔には白布かガーゼを覆います。また、守り刀を胸元に置きます。(真宗系はいらぬ) お顔は見苦しくない程度に化粧なさったり、髪の毛を整えることは、亡くなった方に対する遺族のせめてもの心尽くしと申せましょう。

枕元には白木の机に灯明、香炉、おリン等を用意し茶碗に一杯のご飯(箸を添えて)、お水、団子(特に三角に盛らなくてもいいです)を準備して下さい。真宗系はご飯だけでいいです(お箸は入りませんし、お団子も入りません)。後は御供物として好きだった食べ物などご準備されても結構です。(何も御供えしないご宗派もありますので、お寺様に確認されるほうがよろしいかと思ひます。)

神式では、灯明、御米、御塩、御水、御酒を御供えし、他に御神物を御準備下さい。

キリスト教ではお花を御準備下さい。(一部必要のない教団もあります。)

他にさまざまな御宗旨もありますが、教会などの代表の方にお伺いするとよろしいです。

② 喪主を決める

故人に最も近い続柄の人を選ぶのが通例ではありますが、親戚の方々とよく相談して決定します。

③ お寺・神社・教会への依頼

葬儀もしくは告別式を仏式・神式・キリスト教式のいずれにするかまた、無宗教にて執り行うか決定します。

仏式の場合は枕経の後、戒名(法名)をお寺様に決めて頂き、お寺様の人

数、都合の良い時間を確認します。

- ④ 葬儀役員の依頼
葬儀委員長や顧問等を決めて郑重にお願いします。

- ⑤ 葬儀の日時を決める
喪主、遺族親族の意向を確認し、僧侶・神官・牧師様や葬儀役員の都合を確認のうえ決定します。(仮通夜、通夜、葬儀式、出棺、骨上げ法要等)
◎火葬場の予約状況の確認も忘れずにしましょう。

- ⑥ 式場を決める
斎場、菩提寺、各町内会館、もしくは近くの寺院等（宗旨が違って借りられることもある。）

- ⑦ 親戚縁者、職場等への連絡
自宅電話のそばに、大き目の用紙で、葬儀の日時、式場の住所、電話番号と略地図を張っておくと喪主以外の人でも連絡できます。

- ⑧ 写真の手配
遺影の写真（祭壇用引き伸ばし写真）通常のスナップ写真からでも引き伸ばしができます。2、3枚表情のよいものを選んで頂ければ、当社にて指示、手配できます。但し、なるべくは光沢の写真の方がよいでしょう。（絹目の写真ではざらざらも一緒に写ります）
また、親族一同で祭壇の前で写真を撮るかどうかが決めておきましょう
（集合写真）

- ⑨ 死亡広告
有料告示
喪主の意志に基づき一般の通知案内を行います。

無料告示

各新聞社のお悔やみ欄

地域によっては、死亡届を市役所に提出するときに、その場でお悔やみ欄掲載の受け付けをすることもあります。最寄の新聞社にお問合せ下さい。（ただし、前日の午後3時までには受付をしないと、当日の朝刊には掲載されません。）

⑩ 葬儀祭壇等の契約

葬儀の規模、霊柩車、会葬礼状等の打ち合わせをします。

香典返し(返品もできる)の手配もできます。また、湯灌等の細部にわたる時間的、内容的な打ち合わせもしましょう。

⑪ 食事関係の手配

通夜前の夕食、通夜後の夜食、宿泊者の朝食、火葬場及び式場居残り者の分の昼食等を葬儀役員と相談の上手配します。葬儀役員の方々に作っていただくか、仕出し会社等にて弁当を発注するか決定します。また、できるだけ

親戚の方の人数を把握するようにしましょう。

親戚の方の通夜前の夕食の人数	名
〃 通夜後の夜食の人数	名
〃 宿泊者(朝食)の人数	名
〃 火葬場に行く方(昼食)の人数	名
〃 火葬場に行かれない方の人数	名
〃 忌中引き法要のお参りの人数	名

(飲み物、お茶、菓子類、お酒の手配も一緒にします。

また、地域によっては、通夜後、御弔問の方々に渡す缶ジュースの手配も忘れずにしましょう。)

⑫ 忌中引き関係の手配

葬儀役員もしくは、葬儀社と相談のうえ、忌中引き法要(骨上げ法要)の後、会食するか、引き物(お持ち帰りの料理等)を渡すか決定し、仕出し会社もしくは葬儀社に手配します。